延喜式曰、備前國驛馬、坂長、珂磨、高月、各二十匹、津高十四匹、

按するに、坂長の驛は、今の三石の驛なり、珂磨驛は磐梨郡にあり、既に廢して村里となれり、高月の驛は志坂郡にあり、既に廢す、今和田村河本村立川村是なり、津高驛は既に廢して、今いづれの所といふ事をしらず、疑ふらくは津高郡辛川村の事ならん歟、皆其ところ路にかゝぐ、延喜式の驛路を考がふるに、坂長の驛より可眞驛にいたり、此間野谷村今谷村より、吉田村藤堂村、和氣村にいたり、東川を渡り磐梨郡吉原村直木村を歷る、可眞驛より高月驛に至る、此間赤坂郡日古木村、二井村、上市村、下市村を歷る、高月驛より津高驛にいたる、此間吉田村牟佐村西大川を渡り、御野郡杉若郷を通り、三野村より福林寺畷へいたり、津高郡富原村を歷て辛川村に至る、

〔太平記七〕赤松蜂起事

赤松二郎入道圓心、播磨國苦縄ノ城ヨリ打テ出テ、山陽山陰ノ兩道ヲ差塞ギ、山里梨原ノ間ニ陣ヲトル、爰ニ備前、備中、備後、安藝、周防ノ勢共、六波羅ノ催促ニ依テ、上洛シケルガ、三石ノ宿ニ打集テ山ノ里ノ勢ヲ追拂テ通ントシケルヲ、〇下略

建置沿革

〔日本國郡沿革考三山陽道〕備前　古吉備國之地、分爲前中後三國、未詳在何時、備後之名、既見安閑紀、然則分爲三國、亦尚矣、管八郡、六百七十三村、

御野六十三村　古三野國、見國造記、後爲郡、建國府于此、　津高九十三村　赤坂九十四村　磐梨六十四村　延暦七年六月、割和氣郡置、依和氣清麻呂之議、　和氣八十九村　本藤原郡、養老五年四月、分備前國邑久赤坂二郡之郷始置、藤原郡則是、神龜三年十一月、改爲藤野郡、天平神護二年五月、割邑久郡香登郷、赤坂郡珂磨、佐伯二郷、上道郡物理、肩背、沙石、三郷、隷藤野郡、神護景雲三年六月、改藤野郡爲和氣郡、　邑久七十八村　古大伯國、見國造記、　上道百八村　古上道國、見國造記、　兒島八十四村

〔日本地誌提要五十三備前〕沿革　上古吉備ト云、後三州ニ分チ、國府ヲ上道郡ニ置、今ノ國府市場村是ナリ　鎌府ノ初、土肥實平梶原景時ヲシテ守護タラシメ、佐々木盛綱ニ兒島郡ヲ賜フ、北條氏ノ末、加治長綱ヲ以テ守護トナス、建武中興、松田盛朝ヲ守護トシ、兒島高德ニ兒島郡ヲ賜フ、足利尊氏ノ反